

## ■研究ノート

## 問合せ記録に見る岩手の多様な生物たち

中村 学 (学芸調査員)

## 1 問合せ受付記録

私の仕事机には「問合せ受付記録」という用紙が置かれています。これは簡単なメモ用紙で、博物館に寄せられた様々な問合せのうち、私が受け付けた生物に関する質問内容を記録しているものです。多くは一般市民の方からの質問で、中には非常に貴重な情報も含まれています。昨年4月から11月までの8ヶ月間に私が受け付けた41件の記録からいくつか紹介しましょう。

## 2 トンボの体にチョウの触角

日差しが強くなり始める6月頃から各地の博物館や大学などへの問合せが増えてくる常連といえばオオツノトンボです。

「変わったトンボが捕れたんですけど…」、「触角がチョウみたいで、体がトンボで…」ときたら、ほとんどの場合ツノトンボ類のことです。この昆虫は脈翅（アミメカゲロウ）目ツノトンボ科に属し、幼虫が蟻地獄として知られるウスバカゲロウに近い仲間です。トンボの仲間ではなく、はかない命の例えとされるカゲロウとも全く違うグループです。オオツノトンボは、一部の図鑑によると、生息地が限られているように書かれていますが、岩手県では比較的多く見られます。

昨年は岩手県内から12件のツノトンボに関する問合せがありました。電話だけの場合も、生息地の状況などからすべてオオツノトンボと思われます。ツノトンボ類に関

する問合せは、一昨年には2件しかなく、なぜ大幅に増えたのか疑問が残ります。来年はどうなるか興味深いところです。

## 3 ラーメンのような不思議な生物

「庭に、ラーメンのように黄色く細長い変わった生き物で、頭は貝割れ大根のようになっていて……」という盛岡市内の方からの電話を受けながら、思い当たる図鑑を急いで開いて見ると、オオミスジコウガイビルの特徴と一致することがわかりました。その後実物を博物館まで持ってきて頂き観察したところ、体長は約20cmで、伸びると25cm程にもなる何とも奇妙な生物でした。この種は東南アジア原産の外来種で、大きなものは1mにもなります。近年分布を広げており、関東以西の各地で発見されているようです。ただ、東北地方の記録はほとんどないと思います。

地球の温暖化と結びつけて考えられそうですが、寒い盛岡の冬を越せるか、繁殖しているかについては不明です。偶然に卵や幼体が園芸用の土などに付着して持ち込まれたものかもしれません。

ところで、コウガイビルという名前を初めて聞く方も多かもしれません。「コウガイ」は漢字では「筭」と書き、日本髪を結うときの髪飾りのことで、形が似ていることからついた名前ようです。川や沼などに居る環形動物のヒルの仲間ではなく、扁形動物門渦虫綱に属する動物です。再生

実験の材料として知られるプラナリアに近い仲間です。

## 4 多様な質問

昨年印象に残った2つの例を紹介しましたが、まだまだいろいろな問合せが日常的に寄せられてきます。

「腹部がカマキリの顔のような模様のクモを採集した」という電話も印象に残っています。これは、オオトリノフンダマシという岩手では珍しいクモでした。

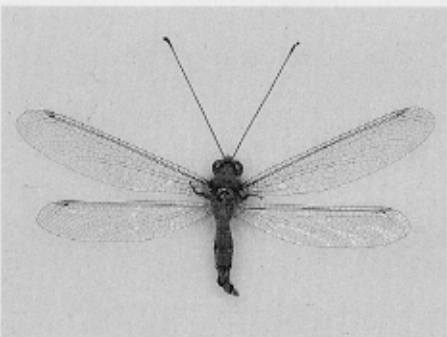
その他、「昆虫採集用具を買いたいが店を教えてほしい」とか「標本の作り方を教えてほしい」などの答えやすい内容の場合はいいのですが、「カブトムシの成虫のおなかに生えている毛は何のためか」という小学生からの質問には驚かされました。「バッタが多数死んでいるが死因は何だろうか」といって写真を見せられた時は判断に苦慮しました。ある初夏の日には、「ホタルが見られる場所を知りたい」という質問があり、季節の移り変わりを気づかせてくれたこともありました。

## 5 問合せは大切な情報源

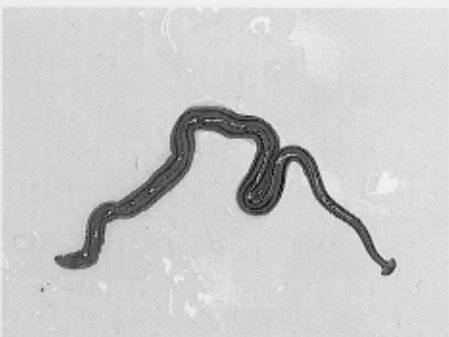
問合せには、できる限りお答えするように努力していますが、知識が及ばず的確な情報を提供できないこともあります。その時は別の専門家や文献を紹介するなどして対応するようにしています。

そこでお願ひですが、生物に関する質問の場合は、できる限り実物があると助かります。更に発見（採集）した期日、場所、周囲の環境など、できるだけ詳しく教えて頂けるとより正確な回答ができ、それが生物の生息状況を知る貴重な資料として価値のあるものとなります。

多くの方々が自然や身の回りの生物に関心を持ち、疑問に思うことは大変良いことだと思います。博物館までお気軽にご連絡ください。



オオツノトンボ



オオミスジコウガイビル